

令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果について

清川村教育委員会

1 調査の概要について

(1) 調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【文部科学省 HP より引用】

(2) 調査実施日 令和5年4月18日(火)

(3) 調査の内容

- ◇小学校第6学年・中学校第3学年の全児童・生徒を対象
- ◇教科に関する調査は国語、算数・数学、英語（中学校のみ）を出題
 - ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等
 - ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のために構想を立てて実践し評価・改善する力 等
- ◇生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査を実施

(4) 調査に参加した児童・生徒数

	国語	算数・数学	英語	児童・生徒質問紙
小学校	19人	19人	—	19人
中学校	18人	18人	18人	18人

(5) 全国・県・村の公立学校の参加状況

	小学校	中学校
全国(公立)	18,821校	9,702校
神奈川県	855校	413校
清川村	2校	1校

2 各教科の平均正答率

令和5年度 各教科平均正答率一覧（単位は％）

	教科	清川村	神奈川県	全国
小学校	国語	59	66	67.2
	算数	60	63	62.5
中学校	国語	60	70	69.8
	数学	44	52	51.0
	英語	30	50	45.6
	英語「話すこと」	7	15	12.4

※県・村の正答率は整数表示

3 令和5年度 全国学力・学習状況調査 調査結果概要

小学校 ※「学習指導要領の内容・領域」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

【国語】

※青数字は+5ポイント以上 赤数字は-5ポイント以上の差

分類	区分	対象 問題数	平均正答率(%)			比較		
			清川村	県(公立)	全国(公立)	県(公立)	全国(公立)	
全体		14	59	66	67.2	-7.0	-8.2	
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	68.4	70.1	71.2	-1.7	-2.8	
		(2) 情報の扱い方に関する事項	60.5	64.3	63.4	-3.8	-2.9	
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0	—	—	—	—	
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	61.4	70.4	72.6	-9.0	-11.2
		B 書くこと	1	10.5	25.6	26.7	-15.1	-16.2
C 読むこと		3	54.4	70.4	71.2	-16.0	-16.8	
評価の観点	知識・技能	7	66.2	68.5	68.9	-2.3	-2.7	
	思考・判断・表現	7	51.1	64.0	65.5	-12.9	-14.4	
	主体的に学習に取り組む態度	0	—	—	—	—	—	
問題形式	選択式	9	66.7	73.4	73.6	-6.7	-6.9	
	短答式	2	63.2	61.2	62.7	2.0	0.5	
	記述式	3	31.6	48.2	51.1	-16.6	-19.5	

【算数】

分類	区分	対象 問題数	平均正答率(%)			比較	
			清川村	県(公立)	全国(公立)	県(公立)	全国(公立)
全体		16	60	63	62.5	-3.0	-2.5
学習指導要領の領域	A 数と計算	6	65.8	67.1	67.3	-1.3	-1.5
	B 図形	4	44.7	50.0	48.2	-5.3	-3.5
	C 測定	0	—	—	—	—	—
	C 変化と関係	4	65.8	72.3	70.9	-6.5	-5.1
	D データの活用	3	61.4	65.2	65.5	-3.8	-4.1
評価の観点	知識・技能	9	66.1	67.8	67.2	-1.7	-1.1
	思考・判断・表現	7	51.1	57.2	56.5	-6.1	-5.4
	主体的に学習に取り組む態度	0	—	—	—	—	—
問題形式	選択式	5	60.0	59.2	57.7	0.8	2.3
	短答式	7	72.2	74.8	74.7	-2.6	-2.5
	記述式	4	36.8	47.8	47.3	-11.0	-10.5

中学校

【国 語】

※青数字は+5ポイント以上 赤数字は-5ポイント以上の差

分類	区分	対象 問題数	平均正答率(%)			比較	
			清川村	県(公立)	全国(公立)	県(公立)	全国(公立)
全体		15	60	70	69.8	-10.0	-9.8
学習指導要 領の内容	知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	69.4	66.3	67.5	3.1	1.9
		(2)情報の扱い方に関する事項	52.8	63.7	63.4	-10.9	-10.6
		(3)我が国の言語文化に関する事項	55.6	71.7	74.7	-16.1	-19.1
	思考力、判断 力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	75.9	82.5	82.2	-6.6	-6.3
		B 書くこと	55.6	64.6	63.2	-9.0	-7.6
C 読むこと		52.8	64.2	63.7	-11.4	-10.9	
評価の観点	知識・技能	7	58.7	67.9	69.4	-9.2	-10.7
	思考・判断・表現	9	61.1	70.4	69.7	-9.3	-8.6
	主体的に学習に取り組む態度	0	—	—	—	—	
問題形式	選択式	7	61.9	73.9	73.1	-12.0	-11.2
	短答式	4	54.2	63.3	65.6	-9.1	-11.4
	記述式	4	62.5	68.1	68.0	-5.6	-5.5

【数 学】

分類	区分	対象 問題数	平均正答率(%)			比較	
			清川村	県(公立)	全国(公立)	県(公立)	全国(公立)
全体		15	44	52	51.0	-8.0	-7.0
学習指導要領の領域	A 数と式	5	61.1	65.2	63.0	-4.1	-1.9
	B 図形	3	25.9	36.1	33.2	-10.2	-7.3
	C 関数	4	36.1	51.7	51.2	-15.6	-15.1
	D データの活用	3	42.6	47.4	48.5	-4.8	-5.9
評価の観点	知識・技能	10	50.0	56.6	55.7	-6.6	-5.7
	思考・判断・表現	5	31.1	43.4	41.6	-12.3	-10.5
	主体的に学習に取り組む態度	0	—	—	—	—	
問題形式	選択式	4	40.3	46.7	45.3	-6.4	-5.0
	短答式	6	56.5	63.3	62.6	-6.8	-6.1
	記述式	5	31.1	43.4	41.6	-12.3	-10.5

【英 語】

分類	区分	対象 問題数	平均正答率(%)			比較	
			清川村	県(公立)	全国(公立)	県(公立)	全国(公立)
全体		17	30	50	45.6	-20.0	-15.6
学習指導要領の領域	(1)聞くこと	6	48.1	62.5	58.4	-14.4	-10.3
	(2)読むこと	6	27.8	55.7	51.2	-27.9	-23.4
	(5)書くこと	5	11.1	29.5	23.4	-18.4	-12.3
評価の観点	知識・技能	9	36.4	56.6	54.8	-20.2	-18.4
	思考・判断・表現	8	22.9	43.4	38.8	-20.5	-15.9
	主体的に学習に取り組む態度	0	—	—	—	—	
問題形式	選択式	12	38.0	59.1	54.8	-21.1	-16.8
	短答式	3	13.0	37.9	30.1	-24.9	-17.1
	記述式	2	8.3	16.9	13.5	-8.6	-5.2

【英 語】 「話すこと」

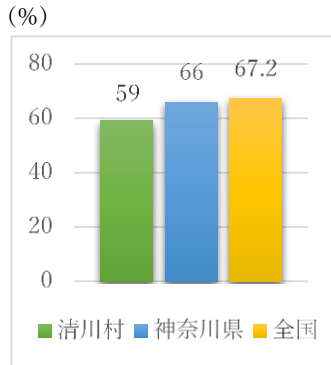
分類	区分	対象 問題数	平均正答率(%)			比較	
			清川村	県(公立)	全国(公立)	県(公立)	全国(公立)
全体		5	7	15.0	12.4	-8.0	-5.4
	(3)話すこと[やりとり]	4	8.3	17.4	14.5	-9.1	-6.2
	(4)話すこと[発表]	1	0.0	6.6	4.2	-6.6	-4.2
評価の観点	知識・技能	3	11.1	15.2	13.9	-4.1	-2.8
	思考・判断・表現	2	0.0	15.1	10.1	-15.1	-10.1
	主体的に学習に取り組む態度	0	—	—	—	—	
問題形式	選択式	0	—	—	—	—	
	短答式/口述式	3	11.1	15.2	13.9	-4.1	-2.8
	記述式/口述式	2	0.0	15.1	10.1	-15.1	-10.1

令和5年度全国学力学習状況調査の分析と今後に向けて

清川村教育委員会

【小学校】

国語の正答率



【強み】

≪全国の平均正答率と比べて上回っているもの≫

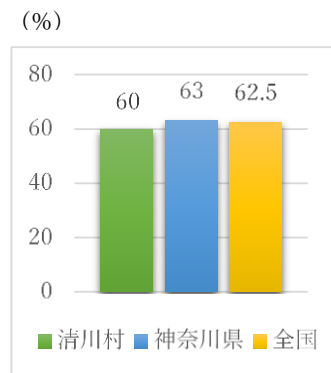
- 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。
- 情報と情報との関係づけの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。
- 日常よく使われる敬語を理解している。

【課題】

≪全国の平均正答率と比べて課題と考えられるもの≫

- 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけること。
- 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。

算数の正答率



【強み】

≪全国の平均正答率と比べて上回っているもの≫

- 台形や正三角形の意味や性質について理解している。
- ()を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ることができる。
- 示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断できる。

【課題】

≪全国の平均正答率と比べて課題と考えられるもの≫

- 高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大きさを判断し、その理由を言葉や数を用いて記述すること。
- 伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを記述すること。

【今後の学習指導に当たって】

≪国語≫

読む目的に応じて、複数の資料を読みながら、必要な情報を見つけ、その関係を考えられるようにすることが重要。また、分かったことを整理したり、分かったことの中から既知の知識や体験などに結びつくものを考えたりしながら自分の考えをまとめるようにする。

≪算数≫

図形を構成する要素や構成する要素の関係に着目して図形を観察したり、操作したりする活動を通して、図形の意味や性質を見出したり、それらの操作について、図形の意味や性質をもとに考えたりできるようにすることが重要。また、伴って変わる二つの数量について、比例の関係にあることを用いて、筋道を立てて考え、知りたい数量の大きさを求めることができるようにする。

※【今後の学習指導に当たって】は、国立教育政策研究所が作成した報告書より抜粋

【児童質問紙調査の結果（全国と比べて肯定的な回答割合が高い○ 低い●）】

- 学校に行くのが楽しいと感じている。
- 友達関係に満足している。
- 学校で、PC・タブレットなどのICT機器を、ほぼ毎日、週3回以上活用している。また、ICT機器の活用が勉強の役に立つと感じている。
- 平日も土日も1日当たりに勉強する時間が少ない。
- 自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表することができていない。

【質問紙調査と教科の正答率の関連性についての分析結果（クロス集計）】

【正答率が上位となった子どもの特徴】

- 読書が好きである。
- 5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する場面では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた。

1 読書は好きですか。	平均正答率 (%)	
	国語	算数
肯定群平均	64.3	60.5
否定群平均	48.6	57.5

2 自分の考えを発表する場面では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	平均正答率 (%)	
	国語	算数
肯定群平均	64.9	66.8
否定群平均	51.4	52.5

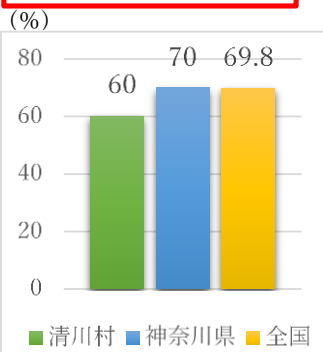
【今後に向けて】

《質問紙調査から》

- 質問項目の「学校に行くのが楽しいと思う」という回答や、「友達関係に満足している」という回答が多いことから、本村の児童は県や全国と比較して学校への満足度が高い傾向にあることがわかります。また、「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることが多くある」という回答が県や全国と比較して多いことから、学校以外の家庭生活等でも児童の満足度が高いことがわかります。学校や家庭が安全な場所であり、心が満たされる状況にあることは児童の前向きな姿につながります。今後も児童が安心して過ごすことができ、自分の良さを発揮できる環境づくりを大切にしていきたいと思います。
- 学校で、PC・タブレットなどのICT機器を、ほぼ毎日、週3回以上活用していることが県や全国と比較して多い傾向があります。GIGA スクール構想に先駆けて配備されたタブレット端末が、学校で積極的に活用されていることがわかります。また、児童自身がICT機器の活用が勉強の役に立つと感じていることから、効果的な活用が進んでいることもわかります。今後は、家庭学習等においてもタブレット端末をより計画的・効果的に使い、授業の中で培ってきた情報活用能力に、さらに磨きをかけていきたいと思います。
- クロス集計で示されているとおり、自分の考えを発表する時に、資料や文章、話の組立てなどを工夫すると各教科の平均正答率が高くなる傾向にあります。昨年度も同様の結果が出ていることから、引き続き、自分自身で主体的に考え、その考えを基にして、友達、先生、自分自身、教材等との対話をとおして、より深い学びにつなげていくことを大切にしていきたいと思います。また、読書が好きな児童ほど、各教科の正答率が高い傾向がうかがえます。今後も継続して本に親しみ、よりよい読書週間の中で、各教科に必要な能力を高めていくことが望まれます。

【中学校】

国語の正答率



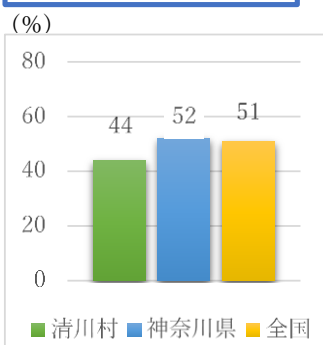
【強み】

- ≪全国の平均正答率と比べて上回っているもの≫
- 目的や場面に応じて質問する内容を検討することができる。
 - 文脈に即して漢字を正しく書くことができる。

【課題】

- ≪全国の平均正答率と比べて課題と考えられるもの≫
- 意見と根拠など情報との関係について理解すること。
 - 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むこと。

数学の正答率



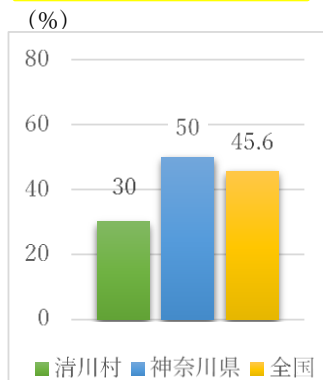
【強み】

- ≪全国の平均正答率と比べて上回っているもの≫
- 自然数や累積度数の意味を理解している。
 - 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる。

【課題】

- ≪全国の平均正答率と比べて課題と考えられるもの≫
- 空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解すること。
 - 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること。

英語の正答率



【強み】

- ≪全国の平均正答率と比べて同等のもの≫
- 情報を正確に聞き取ることができる。
 - 「事実・情報を伝える」と「考えや意図を伝える」という言語の働きを理解し、事実と考えを区別して読むことができる。

【課題】

- ≪全国の平均正答率と比べて課題と考えられるもの≫
- 日常的话题について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ること。
 - 「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書くこと。

【今後の学習指導に当たって】

≪国語≫

相手の意見を理解したり自分の意見を述べたりするためには、原因と結果、意見と根拠など話や文章の中に含まれている情報との関係について理解することが重要。また、古典の世界に親しむためには、古典の文章を繰り返し音読して、その独特のリズムに生徒自ら気づくようにする。

≪数学≫

空間における平面が一つに決まるときの条件について、観察や操作などの活動を通して、実感を伴いながら理解できるようにする。また、様々な問題を数学を活用して解決できるようにするために、表、式、グラフなどを用いて問題解決する場面を設定し、それらをどう用いたかについて数学的に説明できるように指導することが重要。

≪英語≫

話されることの全てを聞き取ろうとするのではなく、自分の置かれた状況などから何が自分にとって必要な情報かを判断した上で聞き取ることが重要。

【生徒質問紙調査の結果（全国と比べて肯定的な回答割合が高い○ 低い●）】

- 今住んでいる地域の行事に参加している。
- 地域や社会をよくするために何かをしてみたいと思っている。
- 学習の中で PC やタブレットなどの ICT 機器を使うのは勉強に役立つと感じている
- 授業で学んだことを、ほかの学習で生かしている。
- 将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業についたりしたいと思う生徒が少ない。
- 1日あたりの読書時間が少ない。

【質問紙調査と教科の正答率の関連性についての分析結果（クロス集計）】

【正答率が上位となった子どもの特徴】

- 学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。
- 1、2年生の時に受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた。

- 1 学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか。

	平均正答率（％）		
	国語	数学	英語
肯定群平均	62.2	46.1	34.4
否定群平均	53.3	40.0	23.5

- 2 1、2年生の時に受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。

	平均正答率（％）		
	国語	数学	英語
肯定群平均	62.6	44.7	31.3
否定群平均	36.7	40.0	26.5

【今後に向けて】

≪質問紙調査から≫

- 「今住んでいる地域の行事に参加している」「地域や社会をよくするために何かをしてみたいと思っている」という生徒が県や全国と比較して多い傾向にあることから、地域への愛着の強さがうかがえます。今後も積極的に地域の行事に参加し、地域を大切にする心を育ててほしいです。また、総合的な学習の時間等を通して、地域や社会のこれからについて考え、学びを生かせる場としていきたいと思います。

- 学校で、授業中に調べる場面や、意見を交換する場面で、PC やタブレットなどの ICT 機器を使うのは勉強に役立つと感じている生徒が、県や全国と比較して多い傾向にあります。このことから、日々の授業の中で効果的に活用できている状態にあることがうかがえます。今後は、より効果的に活用できるような機会を積極的に捉え、活用の幅を広げていきたいと思います。また、活用の場面については、どの場面がより有効に活用できるのか、生徒が自ら判断できるようになっていくことが、今後の社会生活で求められる力となってきます。生徒自身が ICT 機器にも主体的にかかわり、より便利な道具として、必要な時に、必要な用途で活用できることが大切です。

- クロス集計から、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っているほど、各教科の正答率が高い傾向がうかがえます。また、学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいるほど正答率が高い傾向があることから、学習した内容や話し合った内容を自分事として捉え、それを生活や次の学習に生かしていくことで各教科に必要な能力を高めていくことが望まれます。